

ブロックのニーズと教育へのつながり

16S11077 宗像詩乃

こども心理専攻 指導教員 小谷博子

キーワード：ブロック・知育玩具・教育

目的

子どもの教育、発達には子どもの発達段階に適した玩具を与えることが重要であり、世間では知的発達を促すことを目的とした玩具が多く販売されている。石橋(1995)は、遊びは幼児にとって生活そのものであり、成長、発達の糧であり、諸能力の学習の場を提供するものであると述べている。知育玩具とは、幼児や児童が考えることや表現することにより、知的発達に影響を及ぼす玩具のことである。遊びは子どもの発達過程において重要な役割を持ち、そこで使用する玩具も遊びと密接な関係を持つ。

本研究では、ミュキ精工株式会社から発売されている「リポブロック」を使用し、ブロックは教育に効果があるのか、知育面での回答者評価、商品の対象年齢を調査し商品のニーズを明らかにする。

方法

1. 実験参加者

2019年8月5日～31日にリポブロックの体験会に参加して頂いた体験者の参加者101名（女性83人、男性18人、平均年齢41.24歳、SD=8.09）

2. 実験期間

2019年8月5日～8月31日

3. 実験場所

東京芸術センター、亀有アリオ、北千住マルイ、ギャラクシティ

4. 実験器具

リポブロック、質問調査アンケート用紙

5. 実験方法

リポブロック体験会へご来場いただいた保護者の方々に質問紙にて商品に対するニーズ調査を行い回答してもらった。

6. 分析方法

自由記述で得られた回答をテキスト形式で入力を行い、ユーザーローカルテキストマイニング

(<https://textmining.userlocal.jp/>)を利用してテキストマイニング分析を行った。

リポブロックの対象年齢を検討する際には、スピアマンの順位相関係数を算出した。また、対象年齢の回答数に偏りがあるかどうかを検討するため、 χ^2 検定を行った。

結果

仮説1である「リポブロックは知育玩具という認識で遊ばれている」は、リポブロックは知育玩具であるかという質問に「思う」と回答した人が95%であり、ほとんどの人がリポブロックは知育玩具であると感じていることから支持されたと言える。

「リポブロックは様々な学習効果が期待されている」という仮説2は、リポブロックは子どもの教育に役立つかという質問に対し「思う」と答えた人が91%であり、リポブロックは集中力の向上に繋がると思うかという質問に対し「思う」と回答した人が94%いたこと、また、リポブロックを体験することで身につくと思う能力に

ついでにテキストマイニングの結果、「想像力」、「集中力」、「考える力」、「発想力」という名詞が多く挙がっていた。この回答から体験者の保護者は、リポブロックは知的発達に影響があると感じているのではないかと考えた。以上の結果から、仮説2は支持されたと言える。

仮説3の「リポブロック対象年齢は5歳以上である」は、回答者の多くが5歳からが適切な対象年齢だと感じていることが明らかとなったことや、リポブロックの対象年齢の回答数に偏りがあるかどうかを検討するため、 χ^2 検定を行ったところ、有意な差が見られたことから支持されたと言える。また、体験者の年齢とリポブロックの難易度の関係性を検討する際、スピアマンの順位相関係数を算出したところ、有意であった。このことから体験者の年齢が上がるほど、リポブロックの難易度が下がることが示された。

考察

仮説1の「リポブロックは知育玩具という認識で遊ばれている」が支持されたことにより、仮説2の「リポブロックは様々な学習効果が期待されている」も支持されたのではないかと考える。仮説3が支持された要因は、商品パッケージに記載されている対象年齢を目にしている記入者が多かったのではないかとと思われる。質問紙には実際に体験して感じた年齢を記入してもらうように記載していたが、目にしている情報が回答に影響を及ぼしている可能性があると考えられる。使用したことのあるブロック玩具で多く挙げたものは、保育園や幼稚園で使用していると教えてくれる母親も多かった。このことから、リポブロックの認知度を上げるために、保育園や児童館など、子どもが触れやすい環境への普及率を上げるのは有効な手段であると言える。

また、今後の商品開発の際には体験者の声に耳を傾け、子どもが面白そうと感じる商品を開発することと、保護者の片付けに対する意見を参考にすると、さらにリポブロックの認知度が上がるのではないかと考える。

文献

- ・石橋尚子(1995).おもちゃのファジー性と幼児の象徴能力との関係—子ども社会研究(1), 5-13
- ・小沼拓也・山岸直秀・鈴木誠(2019).知育玩具に関するレビューデータの分析—経営情報学会全国研究発表大会要旨集,129-132
- ・木原久美子・藤崎春代・浜谷直人・馬場久志・倉持清美・田口久美子(1991).こどもの遊びにおける玩具の役割—過去20年の玩具研究のテーマにみる役割の変遷と遊びに果たす役割—日本教育心理学会総会発表論文集,33, 275-276
- ・中村哲(1989).幼児期における積木遊びの教育思想と保育実践—「大型積木遊び」の保育実例をてがかりに—学校教育研究,(1),1-14
- ・松本峰雄(2016).保育の心理学演習ブック,ミネルヴァ書房
- ・山口晃人(2016).ブロック型知育玩具におけるユーザ評価項目の検討—首都大学東京大学院